

## 1. はじめに

本学において、PBL 教育の全学的展開の方針が示されたのが、2005 年度の年度計画からである。2005 年 7 月には、「第 1 回三重大学教育開発ワークショップ」が開催され、全学の教職員 26 名が参加した。教育学部からは 9 名が参加し、その後の学部の PBL 教育を推進する原動力となっていった。

本学部においても、2005 年度の計画に PBL 教育の試行的な実施の方針が示された。また、同年度の「大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成 GP）」として、『教員養成型 PBL チュートリアル教育の展開』を文部科学省に申請し、教育組織やシステムの整備も進められた。その一環として「カリキュラム改革・PBL 教育推進特別委員会」が設置された。同特別委員会の答申を受けて、「PBL 教育実施委員会」が設けられ、2005・2006 年度にわたって PBL 教育の普及・推進を図ってきた。

しかしながら、医学教育で発展したシナリオ型の PBL 教育を、多様な学びの形態が存在する教育学部のカリキュラムに直接導入することには困難さも予想された。そのため、「PBL 教育実施委員会」では、教育学部独自の 3 つのガイドライン

- ①学習者の主体的な学習を促している
- ②ある問題を解決する、もしくは、あるプロジェクトを完成させるといった、「問題解決事態」の中で学習を進めている
- ③集団での問題解決活動が含まれている

を示すなどの対応をとり、教員養成に適した PBL 教育のあり方を検討してきた。一方で、教育学部として、PBL 教育の専門的な研究の必要性が認識され、本プロジェクト「三重大学教育学部 PBL 教育研究プロジェクト」が、13 人のメンバー（松本金矢・上垣渉・森脇健夫・廣岡秀一・根津知佳子・八木規夫・奥村晴彦・藤田達生・後藤太一郎・岡田博明・磯部由香・中西良文・滝口圭子）によって立ち上げられた。

本報告書は、PBL 教育研究プロジェクトが申請し採択された科学研究費補助金基盤研究 (B) 『教員養成型 PBL チュートリアル教育のためのシステムおよび評価法の開発』によって得られた研究成果をとりまとめたものである。

三重大学教育学部 PBL 教育研究プロジェクト  
代表 松本金矢

## 研究組織

研究代表者	：	松本 金矢	(三重大学教育学部准教授)
研究分担者	：	上垣 涉	(三重大学教育学部教授)
研究分担者	：	森脇 健夫	(三重大学教育学部教授)
研究分担者	：	廣岡 秀一	(三重大学教育学部教授)
研究分担者	：	根津知佳子	(三重大学教育学部准教授)
研究分担者	：	八木 規夫	(三重大学教育学部教授)
研究分担者	：	奥村 晴彦	(三重大学教育学部教授)
研究分担者	：	藤田 達生	(三重大学教育学部教授)
研究分担者	：	後藤太一郎	(三重大学教育学部教授)
研究分担者	：	岡田 博明	(三重大学教育学部准教授)
研究分担者	：	磯部 由香	(三重大学教育学部准教授)
研究分担者	：	中西 良文	(三重大学教育学部准教授)
研究分担者	：	滝口 圭子	(三重大学教育学部准教授)

## 交付決定額 (配分額)

(金額単位：円)

年度	直接経費	間接経費	合計
平成18年度	6,500,000	975,000	7,475,000
平成19年度	2,100,000	630,000	2,730,000
総計	8,600,000	1,605,000	10,205,000

## 研究発表

### (1) 雑誌論文

根津知佳子・森脇健夫・松本金矢他, 多様なかわりを包含する“輪ゴムの部屋”の創出, 三重大学共通教育センター, 大学教育研究—三重大学授業研究交流誌—, 第14号, 2006, pp. 15~20.

根津知佳子, 語り出す身体, 東信堂, 『感性哲学』, 6号, 2006, pp. 3~20.

根津知佳子・森脇健夫・松本金矢, 子どもたちの“感性”を可視化する, 東信堂, 『感性哲学』, 6号, 2006, pp. 108~119.

根津知佳子・森脇健夫・松本金矢, 教員養成型PBL教育の課題と展望 ~Moodle を使ったのチューター・学生の自立的活動の支援を通して~, 京都大学高等教育研究開発推進センター, 『京都大学高等教育研究』, 第12号, 2006, pp. 27-39.

根津知佳子他，緩和病棟の音楽療法における“new object”の役割，日本音楽心理学音楽療法講懇話会，『音楽心理学音楽療法研究年報』，第35巻，2007，pp.35～42.

根津知佳子他，Collage制作過程に内包される多様な対話，三重大学教育学部研究紀要，第58巻，2007，pp.169～179.

森脇健夫・根津知佳子・松本金矢他，子どもたちの感性と力を可視化する試みⅠ～大学教員による4回の小学校3年生向け電気の授業を通して～，三重大学教育学部附属実践総合センター紀要，第27号，2007，pp.13～20.

根津知佳子・森脇健夫・松本金矢他，子どもたちの感性と力を可視化する試みⅡ～大学教員による4回の小学校3年生向け電気の授業を通して～，三重大学教育学部附属実践総合センター紀要，第27号，2007，pp.21～28.

磯部由香・松本金矢他，「総合演習」におけるPBL教育の実践，三重大学教育学部附属実践総合センター紀要，第27号，2007，pp.83～87.

後藤太一郎他，サイエンス・パートナーシップ・プロジェクトによる中大連携活動の実施と課題，三重大学教育実践総合センター紀要，第27号，2007，pp.111-116.

後藤太一郎，教員養成課程における学校飼育動物に関する授業実践．動物飼育と教育，第7号，2007，pp.24-28.

根津知佳子，学びの空間を変えることによって掬い集められるコト・モノ，感性哲学，第7号，東信堂，2007，pp.102～117.

廣岡秀一・中西良文他，小学校のコミュニケーション能力に対するPerformance Assessment(2)―活動プログラム(Task)と評価基準(Rubric)の開発―，三重大学教育学部研究紀要(教育科学)，第58号，2007，pp.203-214.

松本金矢・根津知佳子他，音の体験における子ども達の「感じる力」，三重大学教育学部附属実践総合センター紀要，第28号，2008，pp.47-52.

滝口圭子，附属幼稚園での継続的な観察の意味を探る：学生は何を感じ，何を考えたのか，三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，第28号，2008，pp.33～38.

滝口圭子他，子育て交流保育「コアラ」プロジェクト：教員養成カリキュラムの充実及び子育ての地域的共同の実践的構成を追究する共同研究，日本教育大学協会研究年報，第26集，2008，pp. 59-70.

廣岡秀一・森脇健夫・根津知佳子・松本金矢，PBL教育を媒介とした「現場」と「大学の往還関係の構築と評価システムの開発」，日本教育大学協会研究年報，第26集，2008，印刷中.

廣岡秀一・中西良文他，小学生のコミュニケーション能力を高めるための実践活動が教育学部の学生にもたらす発達的变化― わくわくコミュニケーションクラブの実践を通して―，三重大学教育学部紀要，第59号2008，pp. 277-289.

根津知佳子，芸術プログラムの構造，三重大学教育学部研究紀要，第59巻，2008，pp. 269-275.

中西良文他，合宿型ロボット製作における中学生のコミュニケーション力の変容－パフォーマンスアセスメントによる評価を用いて－，『三重大学教育学部紀要』，第59号，印刷中.

森脇健夫・根津知佳子他，小規模特認校におけるアクションリサーチ的試みⅠ，三重大学教育学部附属実践総合センター紀要，第28号，2008，pp. 13-17.

根津知佳子・森脇健夫他，小規模特認校におけるアクションリサーチ的試みⅡ，三重大学教育学部附属実践総合センター紀要，第28号，2008，pp. 19-26.

根津知佳子・松本金矢，教育実践における感性のフレームワーク，日本感性工学会論文集，2008，印刷中.

## (2) 学会発表

磯部由香・後藤太一郎他，食材となる動物を用いた解剖実習と調理実習の連携．日本理科教育学会第53回東海支部大会（2006年11月，名古屋女子大学）

中西良文他，集団問題解決活動における動機づけの変容(1) ―国際 Jr ロボコンにおける参加者の役割行動から―，日本グループ・ダイナミクス学会第53回大会発表論文集，2006，pp. 280-281.

廣岡秀一・中西良文他，クリティカルシンキング志向性の測定に関する研究－多様な測定方法による志向性概念の検討－，日本グループ・ダイナミクス学会第53回大会発表論文集，2006，pp.298-299.

廣岡秀一・中西良文他，大学生の動機づけとクリティカルに考えようとする志向性(1)－大学教育効果の実証に向けた基礎的研究－，大学教育学会第28回大会発表要旨集録，2006，pp.74-75.

中西良文・廣岡秀一他，大学生の動機づけとクリティカルに考えようとする志向性(2)－動機づけ・クリシン・コミュニケーションへの自信の関連－，大学教育学会第28回大会発表要旨集録，2006，pp.76-77.

中西良文他，集団問題解決活動における動機づけの変容(2)－国際 Jr ロボコンにおける参加者の動機づけ変化－，日本教育心理学会第48回総会発表論文集，2006，p.607.

廣岡秀一・中西良文，小学生のコミュニケーション能力に対する Performance Assessment，日本社会心理学会第47回大会，2006.

中西良文他，集団問題解決活動における動機づけの変容(3)－国際 Jr ロボットコンテスト参加者のフローの変化から－，日本心理学会第70回大会発表論文集，2006，p.1268.

根津知佳子・森脇健夫・松本金矢，教員養成型 PBL 教育の課題と展望Ⅱ ～学生による PA 開発～，第13回大学教育研究フォーラム発表論文集，2007. pp.56～57.

滝口圭子，幼稚園での継続的な観察における教員養成大学学部生の意識の推移：レポート内容の分析から，日本教育心理学会第49回総会発表論文集，2007，pp.237.

中西良文，自主シンポジウム（企画者：宇田光）個に応じる授業改革の方法－学校心理学の視点から－（指定討論），日本教育心理学会第49回総会（文教大学越谷キャンパス），2007.

中西良文，「PBLによる教育改善」（話題提供）ワークショップ（企画者：宇田光）大学教育の改革（1）学生の動機づけを高める，日本心理学会第71回大会発表論文集 W51（東洋大学白山キャンパス），2007.

磯部由香・後藤太一郎他，食材となる身近な魚介類を用いた解剖実習の試行．理科教育学会第57回全国大会（2007年8月，愛知教育大学）

根津知佳子, Williams Syndrome の表現と共感性, 日本芸術療法学会, 2007.

根津知佳子, 音楽的場における対話, 日本質的心理学会, 2007.

根津知佳子・松本金矢, 教育実践における感性システムのフレームワーク, 日本感性工学会, 2007.

中西良文・廣岡秀一他, 大学生の動機づけとクリティカルに考えようとする志向性(3)ー1年次における変容に焦点をあててー, 大学教育学会第29回大会発表要旨集録, 2007, pp. 66-67.

中西良文他, 集団問題解決活動における動機づけの変容(4)ー参加者のフローと動機づけとの関連ー, 日本教育心理学会第48回総会発表論文集, 2007, p. 484. (文教大学越谷キャンパス)

中西良文, 感動体験の想起が動機づけに及ぼす影響, 日本心理学会第71回大会発表論文集, 2007, p. 903. (東洋大学白山キャンパス)

後藤太一郎他, 中国の小学校における身近な動物を用いた「動物の体のつくり」に関する授業の実践. 生物教育学会第84回全国大会(2008年1月, 名城大学)

根津知佳子・森脇健夫, 教室における art～表現の場としての空間・時間～, 第9回日本感性工学会感性哲学部会研究発表会, 2008.

森脇健夫・根津知佳子, 教師の授業システム分析ー感性と言葉との関連性に着目してー, 第9回日本感性工学会感性哲学部会研究発表会, 2008.

松本金矢・根津知佳子他, 自由な発想を促す活動『音の館』の創出ー領域を超えた学生と教員の協働ー, 第9回日本感性工学会感性哲学部会研究発表会, 2008.

根津知佳子・森脇健夫・松本金矢, 教員養成型 PBL 教育の課題と展望?ー学生の省察と CS 分析の比較を通してー, 第14回大学教育研究フォーラム発表論文集, 2008.

滝口圭子, 教員養成大学学部生の子ども観は所属コースにより異なるのか: 大学1年生を対象とした質問紙調査, 日本発達心理学会第19回大会発表論文集, 印刷中

### (3) 図 書

奥村晴彦他, Moodle 入門 オープンソースで構築する e ラーニングシステム, 海文堂, 2006, pp. 169-174.

滝口圭子他, LD, ADHD, 高機能自閉症等の子どものための指導教材集 第1集, 小学校移行支援ワークブック・中学校移行支援ワークブック, LD学会(編), 明治図書, 2007, pp. 15~27, 47~149.

森脇健夫他, 教師の力量形成としての授業スタイルとその形成, 学びのための教師論(グループ・ディダクティカ編), 劉草書房 2007, pp. 167-192.